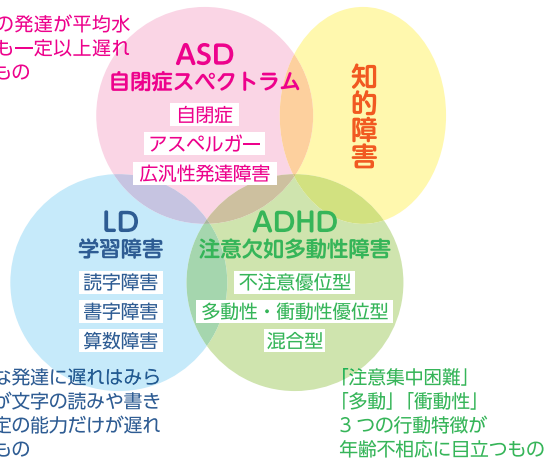


主な発達障害の分類と特性

社会性の発達が平均水準よりも一定以上遅れているもの



その他

■トゥレット症候群

複数の運動や音声チックが続く重症なチック障害。

■吃音

一般的に「どもる」話し方の障害で、滑らかに話すことが年齢等に比して不相応に困難な状態。

■発達性協調運動障害

手と目、手と足などの個別の動きを一緒に行う協調運動が、不正確、困難な障害。

発達障害であることは目に見えないため、周囲から理解されにくい障害です。車いすや松葉杖を使う人のように困っていることが明確でなく、周囲も本人も、実は根底に発達障害があると気付いていないことがあります。

発達障害の診断を受けることで、そのような誤解や理解不足の軽減につながります。

ヘルプマーク



発達障害など配慮や援助を必要とすることが外見からは分かりにくい場合に、周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなることを目指して作成されました。お住まいの市町村や、県障害福祉課などで配布されています。

二次障害への対応

発達障害の特性について周囲の理解がないと、失敗や叱責によって傷つく体験が続いてしまいます。そうしたストレスの高まりや自己肯定感（自分自身の価値や存在意義を肯定できる感情）の低下によって、精神的な崩れや問題行動等につながることがあります。

誰でもうまくいかないことが続くと自暴自棄になることはありますが、発達障害の人の場合、その理解のされにくさによって傷つく可能性が一段と高くなります。



支援のポイント

- ★特性の理解（得意なこと、苦手なことを知る）
- ★自分自身と周囲の理解（特性や支援の必要性を自分で理解し、周囲にも知ってもらう）
- ★対処方法や工夫の検討（どんな支援や工夫があれば苦手が軽減するか考え試してみる）
- ★本人に適した環境設定（安心して過ごせる環境を整えていく）

医療機関を受診するときは

現在お困りの様子だけでなく、小さい頃からの様子やエピソードなどが大切な情報になります。母子手帳や当時の成績表を持参したり、出来事をメモにまとめるなどの準備があるとスムーズな診察につながります。

県内で発達障害の診察が可能な医療機関の一覧は「秋田県発達障害支援ハンドブック」に掲載されています。このハンドブックは、ふきのとう秋田のホームページ【<https://airc.or.jp/fukinotou/f-top.html>】にも掲載しています。

● 作成・お問合せ先 ●

秋田県発達障害者支援センター
ふきのとう秋田

〒010-1409 秋田市南ケ丘 1-1-2 TEL.018-826-8030

正しく知りたい発達障害③

思春期 青年期



発達障害とは

- 発達障害は、生まれつきの脳の働きや発達のアンバランスさによって、普段の生活に支障が出てしまうことを言います。
- 本人の努力不足や保護者の養育によって起こるものではありません。
- 早い時期から周囲の理解が得られ、その人に合った適切な支援や環境の調整が行われることが大切です。
- 発達障害の方の困りごとや苦手さは、人それぞれ異なります。その人が困っていることを知る事が第一歩です。
- 感じ方や考え方の違い、できないことを「努力不足」と決めつけず、その背景にあるものを探ってみましょう。
- 発達障害に関する相談先や、診断が可能な医療機関を活用しましょう。

発達障害における支援とは

- 発達障害は生まれつきのものですので、治療したり完治させたりすることはできません。
- 発達障害による特性（その人の苦手なこと）を正しく理解し、必要な支援や対処方法を見つけていくことで、特性による困りごとを軽減させていくことが目標です。
- そういった対処方法を本人や家族など、本人に関わる周囲の人と一緒に考えていくことが、発達障害支援の大きなポイントです。

秋田県発達障害者支援センター
ふきのとう秋田

思春期・青年期

さまざまな特性の現れ方

コミュニケーション

相手の気持ちに気付けない
異性との距離感がわからない
自分の気持ちを伝えられない
集団での会話についていけない



学校

時間や予定の管理が苦手
(カリキュラムの組立など)
意見交換や討論、共同作業などが苦手



生活

物の管理、部屋の片付けができない
身だしなみに無頓着
ゲームやスマホへの依存、
SNSトラブルが起こりやすい



感覚

人混みや騒々しい場所は苦手
感覚の過敏さがあり疲れやすい



紹介している特性は一例です。
また、発達障害でない場合も同様の言動がみられることがあります。

理解・対応

- 思春期はさまざまな悩みや不安が生じやすい時期で、発達障害のある人にとっては、さらに困難を抱えることがあります。
- 周囲との関係につまづくなどうまくいかないことが続くと、自分に自信を失ったり、意欲が低下したりしてしまうことがあります。
- 社会のルールやマナー、対処方法などについて、具体的に教わりながら身に付けていくことが必要です。



支援の例

- ★スマホやインターネットの使い方について、事前にルールを決めておく。
- ★書字や計算が苦手な場合は、タブレット等を使って補う。
- ★得意科目を伸ばし、自信をつける。
- ★一人で過ごす時間を確保する。
- ★相談しやすい相手を見つける。 など

自分の気持ちや困った感覚をうまく言葉で表現できないことがあります。
気持ちの整理や表現には、周囲のサポートや補足があることで安心しやすくなります。

女の子の特性は目立たないことがある

女の子の場合、発達障害の特性があっても、問題行動として表面化せず「大人しい子」として見過ごされることがあります。

思春期になり周囲とのコミュニケーションがより複雑化する状況になって、初めて発達障害であることに気付くこともあります。

自分を知るために診断を受けてみる

不安や「何だかうまくいかない」という感覚がある場合、発達障害の診断を受けることで、自分の特性を知り、その後の具体的な対処方法について考えていくきっかけになることがあります。

※受診や診断にあたっては、本人の同意が必要です。本人が希望しない場合、無理やり受診させることは控えましょう



感覚の過敏があり疲れやすい

発達障害の特性である感覚過敏（五感が非常に敏感。鈍感なこともあります）により、他の人が何とも思わない刺激に過剰に反応し、それにより大きな負担を感じる場合があります。

例えば…集会や行事など大人数が集まる環境が辛い、周囲が騒がしいと大事な話が聞き取れない、蛍光灯の明かりが眩しすぎて辛い、身体を触られるのが苦手、など。

受験と合理的配慮

受験時などにも、診断を受けることで合理的配慮の申請が可能な場合があります。

例えば、受験会場の下見や問題文の読み上げ、口頭説明の文面提示、別室受験などの配慮があります。申請の際には医師の診断書や、それまでの在籍校で日常的に受けていた支援の実績、個別の支援計画書などの提出を求められることがあります。事前にどのような配慮を求めると、対応できる配慮は何かといった意見交換ができると良いでしょう。